

# 孤独な親、虐待される子どもたち

## 門眞一郎

Kado Shinichiro



門眞一郎さんは児童精神科医師。京都市児童福祉センターの青葉寮寮長として、心に悩みを持つ子どもと親の相談、治療にあたっている。子どもの虐待防止活動に携わる人びとのために、この4月、アメリカのE・クレイ・ジョーゲンセン著『虐待される子どもたち』を共訳、出版した。

子どもの虐待に関心を持ち始めたのは十五、六年前です。家で子守りをしているとき「こんな腹立つことないなあ」と思ったんです。思い当たること全てやっても泣きやまない。こっちもくたびれて腹立って、一回ね、ほうり投げたことあるんですよ。掛布団を畳んでフワフワになっている所へ、手加減しながらですけど。その時「こんな仕事をしている自分でもこうだ。世の中にこういうことはありふれていて、危ない親はいっぱいいるんじゃないか」と思いました。当時は児童相談所に相談される



E・クレイ・ジョーゲンセン 著  
門真二郎 / 山本由紀 / 松林周子 訳

# 虐待される 子どもたち

星和書店

件数も少なく、子育て環境とか家族関係の違いで、日本は、欧米と比べて虐待は少ないはずだと思われていました。でも実感としてそう思えなかった。日本で虐待が問題になったのは、欧米より十年遅れてここ数年ですね。

アメリカやイギリスでは、虐待だと認定されるケースが子ども百人について四、五人。判断基準に違いはありますが、日本でもそれぐらいの人数はいるだろうと思います。ユニセフの統計で虐待を受けます。アメリカとイギリスの中間。そこ

から判断しても百人に数人は覚悟しておかないと。一九九四年に全  
国の児童相談所が受けた虐待の件  
数は千九百六十一件。実際のほん  
の一部に過ぎないと思いますね。

虐待する親で自分自身も虐待を  
受けて育ったという親はかなり多  
いんです。いま虐待を受けている  
子どもが必ずしも虐待する親にな  
るということではないのですが、  
将来の虐待を予防するためにも今  
の虐待を救わないとね。

虐待していても虐待と思ってい  
る親はいない。「躰だ」と言いま  
す。私たちは親がそうせざるを得

ない状況を受け止めなきゃならな  
い。手助けをしたい、一緒に考え  
ましょうと繋げていくんです。親  
を責めてはいけない、親も被害者  
だという認識でいます。虐待を受  
けて育ってきたかもしれないです  
からね。「何という親だ」と親を  
叱りたくなったら担当は変わるべ  
きだと考えています。

親が子どものマイナスの行動だ  
け見て、それをなんとか潰そうと  
いう方向へ行きすぎると、虐待へ  
近づいていくのではないかと思  
いますね。できない、しない、悪い  
ことをする、言うことをきかない  
という点に反応しすぎて罰したり  
叱ったり。体罰に限らず罰の副作  
用は、だんだん効果が薄れエスカ  
レートしてくること。子どもはそ  
の罰に耐えるようになり効かなく  
なる。罰したり叱ったりを絶対に  
やってはいけないとは思いません  
が、それに頼ってしまったらだめ  
ですね。親は子どものいい所、努  
力している所にわりと無反応、鈍

感。子どもが努力しても、もっと  
できるはずだと要求水準を高くし  
て、それに追いつかないと腹を立  
てる。だいたい親の欲が深いんで  
すよ。これができたらこれって。

いま、この社会で子育てをする  
ことは非常に大変なことで、虐待  
までいなくても紙一重のところ  
にいる親は多いんじゃないかと思  
います。虐待にはまってしまう親  
は孤立しています。自分の親に手  
助けを求められないとか、近所付  
き合いがないとか。井戸端会議で  
も不満のはけ口があるといいんで  
す。実母による虐待が一番多いの  
ですが、大抵夫に力になって貰え  
ず孤立している。相談できる所が  
必要です。自分の子育てはおかし  
いのではないかとか、虐待しそう  
だとか、時々児童相談所に相談が  
ありますが、全国的に相談できる  
所は充分ではないですね。地域の  
子育て支援はそういう意味でおお  
いに有効だと思います。

(聞き手・喜田久美子)